

平成20年度後期 自立支援協議会相談支援部会まとめ

後期の相談支援部会では、地域移行促進部会との連携を強化する取り組み、相談支援事業所で日々行われている相談内容から、地域の課題について整理する取り組み、見学会を通じて社会資源を知る取り組みを行った。これらの取り組みから、相談支援として課題の解決方法を考える議論をしてきた。

1 後期の取り組み

(1) 地域の課題整理

グループ別の討議を通じて、多くの課題が出されたが、以下の3点が共通の課題として取り上げられた。

①発達障害者への相談支援

発達障害者の相談が増えてきている。ほとんどの人が就学期にいじめを受けた経験がある。つまり引こもり方、使える制度も少ない中で、家族以外に思いを告げられなく悶々として、家族に対して暴力的になってしまう方、その結果として精神科クリニックの通院・入院、精神薬の服薬で推移している事例が多い。児童期に通院して関係機関を回ったが、その後の継続した療育機関を知ることができなかったり、あるいは15歳を過ぎると日中に活動する場や支援の場が極端に減って家庭にとどまっている現状が多くみられる。

今後の成人期の生活に不安をいだきながら、地域生活支援の相談と専門アドバイス及び継続した支援の場を切実に求めている。

<来年度について>

相談支援関係者で支援事例の検討を行い現状と課題を把握すること、現状での支援の連携方策を確認すること、相談と専門アドバイスの仕組み及び、社会との関係を取れるまでの継続した支援とそのための場の具体化を図ることを取り組んでいく。

②高齢障害者の支援について

ア、サービスの違いによる困難さ

介護保険と障害者自立支援法とのサービスの違いに、多くの高齢障害者の方や家族が戸惑っている実感がある。相談支援事業所としては、障害者のサービスだけでなく、高齢者のサービスについて適切な時期に情報提供を行う必要がある。また、高齢へのサービスに切り替わっても、利用者が不安にならないために、しっかりした支援計画や地域包括支援センター（ケア24）・居宅介護支援事業所との連携が必要と思われる。障害特性について困ってい

るという意見も聞く。必要時に連携がスムーズにできるように、連携への環境整備が急がれている。

イ、高齢に困難さ

高齢になると、今まではできていたことが困難になる場合が多い。自身の障害にさらに高齢という課題が加わり、それを周りの気づきを送れたために、サービス利用ができなくなる場合がある。時にはひきこもりになるケースも寄せられている。通所施設やグループホームなど関係者もそれぞれ取り組んでいる課題ではあるが、相談支援事業所に寄せられる相談でも、増加しつつあり、相談支援部会としても取り組む必要があるのではないかと思える。

<来年度について>

高齢障害者の支援について取り組んでいきたい。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携ができるように環境整備を行いたい。具体的には、高齢障害者の支援の事例を集め、事例報告を実施しながら一緒に検討していく方向を目指したい。

③学齢期の障害児を抱えた家族の相談支援

学齢期の障害児を抱えた家族からは、親(特に母親)が極度に疲弊しているなどの相談が増えている。幼児期の療育に続く学齢期を迎える中で、子どもの成長を願う親の気持ちが学業に向く中、当然学校との関係が強まってくる。一方で、福祉情報が少なくなり、かつ学齢期の障害児童支援の福祉資源、サービス種類と提供可能性が相当に低い現状がある。

また、卒業時や成人期にいたる成長・生活を考慮した継続した支援を可能とする相談支援の意識がまだ希薄であることも現状の課題である。

<来年度について>

①学齢期に相談支援情報・福祉情報が伝わる方法、②小学校から中学校、さらに高等部進学時に必要に応じて、相談支援との関係の持ち方、③高等部卒業時の地域生活に向けた相談支援などとの連携の取り方、などについて、仕組みを早期に具体化していく。

(3) 施設見学報告

実施日：12月2日中の特別支援学校

担 当：深谷委員他1名

参加者の感想 日頃は利用者を通しての授業見学が主だったが、今回は学年を通して総合的に見ることができ参考になった。

課題 卒業生のニーズのためにも、相談支援事業所を理解してもらう必要がある。わかりやすいパンフレット作成・配布が必要と思われる。学校側からは、現在の相談支援事業所は地域別の指定でないため、つなぎにくいとの指摘があった。

2 今後に向けて（相談支援部会の進め方について）

各事業所が活発に活動し、連携をとりながら、それぞれのケア会議、個別支援会議を経て、相談支援部会に課題が挙がり、検討することになるプロセスがとても大切である。それには、

日々の丁寧な相談支援が基本であり、不可欠と思われる。毎日の相談をいかに真摯に向き合いながら行い、相談支援部会で、支え合いができるかが、3年目の目指す道かもしれないと考える。

来年度は①テーマ別のワーキングチーム結成、②各事業所のみならず部会（地域）での若手育成、③グループワークの支援を地域の資源に開放、などの活動を行っていく。

3 部会の開催状況

1 1月21日 第2回自立支援協議会

1 2月 2日 見学会（中野特別支援学校）

1 2月19日 グループ別討議1

1 月16日 グループ別討議2

2 月 3日 地域移行促進部会、相談支援部会合同部会